

第1章：基本的な考え方

- ▶ **野心的なビジョン**：最終到達点としての「脱炭素社会」を掲げ、それを野心的に今世紀後半のできるだけ早期に実現するとともに、2050年までに80%の削減に大胆に取り組む ※積み上げではない、将来の「あるべき姿」
- ▶ **政策の基本的考え方**：ビジョンの達成に向けてビジネス主導の非連続なイノベーションを通じた「環境と成長の好循環」の実現、取組を今から迅速に実施、世界への貢献、将来に希望の持てる明るい社会を描き行動を起こす [要素：SDGs達成、共創、Society5.0、地域循環共生圏、課題解決先進国]

第2章：各分野のビジョンと対策・施策の方向性

第1節：排出削減対策・施策

- 1.エネルギー：エネルギー転換・脱炭素化を進めるため、あらゆる選択肢を追求**
 - ・再エネの主力電源化
 - ・火力はパリ協定の長期目標と整合的にCO2排出削減
 - ・CCS・CCU/カーボンリサイクルの推進
 - ・水素社会の実現／蓄電池／原子力／省エネ
- 2.産業：脱炭素化ものづくり**
 - ・CO2フリー水素の活用（「ゼロカーボン・スチール」への挑戦等）
 - ・CCU/バイオマスによる原料転換（人工光合成等）
 - ・抜本的な省エネ、フロン類の廃絶等
- 3.運輸：“Well-to-Wheel Zero Emission”チャレンジへの貢献**
 - ・2050年までに日本車1台あたり排出8割減を目指す
 - ・ビックデータ・IoT等を活用した道路・交通システム
- 4.地域・暮らし：2050年までにカーボンニュートラルでレジリエントで快適な地域と暮らしを実現／地域循環共生圏の創造**
 - ・可能な地域・企業等から2050年を待たずにカーボンニュートラルを実現
 - ・カーボンニュートラルな暮らし（住宅やオフィス等のストック平均でZEB・ZEH相当を進めるための技術開発や普及促進／ライフスタイルの転換）
 - ・地域づくり（カーボンニュートラルな都市、農漁村づくり）、分散型エネルギーシステムの構築

第2節：吸収源対策

第4章：その他

- ・人材育成
- ・公正な移行
- ・適応によるレジリエントな社会づくりとの一体的な推進
- ・カーボンプライシング（専門的・技術的議論が必要）

第3章：「環境と成長の好循環」を実現するための横断的施策

第1節：イノベーションの推進

- (1)温室効果ガス的大幅削減につながる横断的な脱炭素技術の実用化・普及のためのイノベーションの推進・社会実装可能なコストの実現**
- (2)革新的環境イノベーション戦略**
 - ・コスト等の明確な目標の設定、官民リソースの最大限の投入、国内外における技術シーズの発掘や創出、ニーズからの課題設定、ビジネスにつながる支援の強化等
 - ・挑戦的な研究開発、G20の研究機関間の連携を強化し国際共同研究開発の展開(RD20)等
 - ・実用化に向けた目標の設定・課題の見える化
 - CO2フリー水素製造コストの10分の1以下など既存エネルギーと同等のコストの実現
 - CCU/カーボンリサイクル製品の既存製品と同等のコストの実現 ほか

(3)経済社会システム／ライフスタイルのイノベーション

第2節：グリーン・ファイナンスの推進

- ・イノベーション等を適切に「見える化」し、金融機関等がそれを後押しする資金循環の仕組みを構築
- (1)TCFD[※]等による開示や対話を通じた資金循環の構築** ※気候関連財務情報開示タスクフォース
 - ・産業：TCFDガイダンス・シナリオ分析ガイド拡充／金融機関等：グリーン投資ガイダンス策定
 - ・産業界と金融界の対話の場（TCFDコンソーシアム）
 - ・国際的な知見共有、発信の促進（TCFDサミット（2019年秋））
 - (2)ESG金融の拡大に向けた取組の促進**
 - ・ESG金融への取組促進（グリーンボンド発行支援、ESG地域金融普及等）、ESG対話プラットフォームの整備、ESG金融リテラシー向上、ESG金融ハイレベル・パネル 等

第3節：ビジネス主導の国際展開、国際協力

- ・日本の強みである優れた環境技術・製品等の国際展開／相手国と協働した双方に裨益するコ・イノベーション
- (1)政策・制度構築や国際ルールづくりと連動した脱炭素技術の国際展開**
 - ・相手国における制度構築や国際ルールづくりによるビジネス環境整備を通じた、脱炭素技術の普及と温室効果ガスの排出削減（ASEANでの官民イニシアティブの立上げの提案、市場メカニズムを活用した適切な国際枠組みの構築 等）
 - (2)CO2排出削減に貢献するインフラ輸出の強化**
 - ・パリ協定の長期目標と整合的にCO2排出削減に貢献するエネルギーインフラや都市・交通インフラ（洋上風力・地熱発電等の再エネ、水素、CCUS・カーボンリサイクル、スマートシティ等）の国際展開
 - (3)地球規模の脱炭素社会に向けた基盤づくり**
 - ・相手国におけるNDC策定・緩和策にかかる計画策定支援等、サプライチェーン全体の透明性向上

第5章：長期戦略のレビューと実践

- ・**レビュー**：6年程度を目安として、情勢を踏まえた検討を加えるとともに必要に応じて見直し
- ・**実践**：将来の情勢変化に応じた分析／連携／対話